

[ 成果情報名 ] 長崎県における温州ミカンの購入実態

[ 要約 ] 調査した消費者の78%が「スーパー」か「無人販売所・直売所」でミカンを購入し、84%が「週2～3回以上」ミカンを食べている。コンジョイント分析の結果、店頭表示のうち購入に最も影響していたのは「価格」である。20・30代は価格、40代は価格・産地、50・60代は産地・品質保証、70代は品質保証を重視し、専業主婦は価格を重視している。スーパー利用者は品質保証・価格、青果店利用者は品質保証、無人販売所利用者は産地・価格を重視している。

[ キーワード ] 消費者、購入、コンジョイント分析

[ 担当 ] 長崎総農林試・企画経営部・経営科

[ 連絡先 ] 0957-26-3330、tobay@pref.nagasaki.lg.jp

[ 区分 ] 果樹・営農

[ 分類 ] 指導

[ 背景・ねらい ]

カンキツ産地は、近年の消費者ニーズ及び販売チャンネルの多様化に対応するため、全果実の内部・外部品質を測定し、区分出荷ができる非破壊選果機（＝光センサー選果機）を導入している。ここでは、非破壊選果果実の効果的・効率的な販売を図るため、消費者の温州ミカンの購入実態と、店頭表示の購入への影響度を調査する。

購入実態調査は、県試験場公開のアンケート調査（2002年11月2～3日、有効回答数211名）とする。また、購入への影響度の調査は、「価格(200・300・400円)」、「産地(長崎・A・B県)」、「品質保証(光センサー表示の有無)」の3要因を組み合わせたものを表示した11商品について購入意欲を5段階評価してもらい3要因の影響度を分析するコンジョイント分析（PLANPARTNER/Ver2.1 for Excel）により行う。

[ 成果の内容・特徴 ]

- 1．回答者は50・60代が中心で、専業主婦・無職が多い（図1）。
- 2．ミカンを食べる頻度は、「ほぼ毎日」57%、「週に2～3回」27%である（図2）。また、年代が高いほど食べる頻度が高い（データ略）。
- 3．主な購入場所は、「スーパー」48%、「無人販売所・直売所（以下直売所）」30%、「青果店」14%で「スーパー」と「直売所」で78%を占める。年代別では、20代は「青果店」を利用せず、40代は「直売所」が最も多い。また、70代は「青果店」が32%である（データ略）。
- 4．一回の購入量は、「1kg」66%、「500g」17%が多い。
- 5．購入産地は、58%が「決まっている」か「ほぼ決まっている」とし、うち80%が長崎産を購入している。一方、「こだわらない」は34%で、50代以下、公務員、専業主婦では34%を上回っている（データ略）。
- 6．購入で重視することは、「味」41%、「価格」18%、「鮮度」15%である（図3）。年代別では、20代は「鮮度」・「色」等の外観、30・40代・70代以上は「味」・「価格」、50・60代は「産地」・「栽培法」が他の年代に比べて多い。
- 7．光センサーという言葉は、「知っている」は64%、「知らない」は28%である（図4）。「知っている」のうち、光センサーみかんは品質保証されたみかんと認識があるのは69%である。
- 8．購入への影響度は、全体平均では「価格」が最も高く、「産地」、「品質保証」と続く（図5）。男性は産地、女性は価格を重視している。年代別では、20・30代は価格重視、70代は品質保証重視の傾向が顕著で、40代は価格・産地重視、50・60代は産地・品質保証重視である。職業別では、専業主婦は価格、会社員は産地、公務員は品質保証を特に重視している。一方、購入頻度が高い層は購入時に3要素を総合的に考慮している傾向がみられる。また、スーパー利用者は品質保証・価格、青果店利用者は品質保証、無人販売所利用者は産地・価格を重視している。

[ 成果の活用面・留意点 ]

- 1．温州ミカンの販売法に活用できる。

[ 具体的データ ]

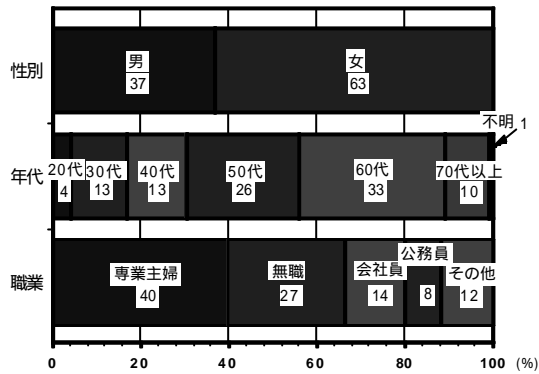


図1 回答者の属性

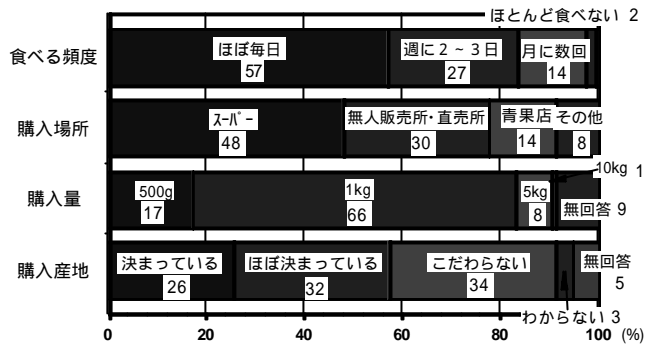


図2 温州ミカンの購入実態

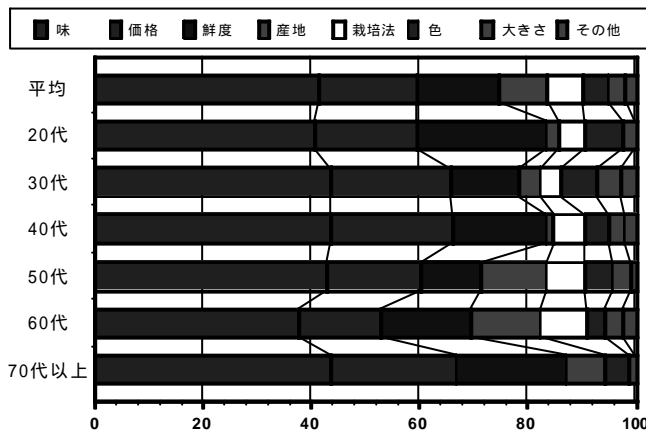


図3 購入時に重視すること (%)

一番重視を3点、二番目重視を2点、三番目重視を1点として集計した得点の割合である。

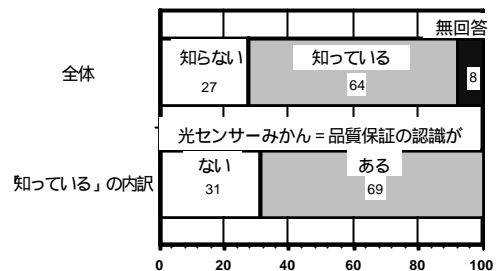


図4 光センサーの認識度 (%)

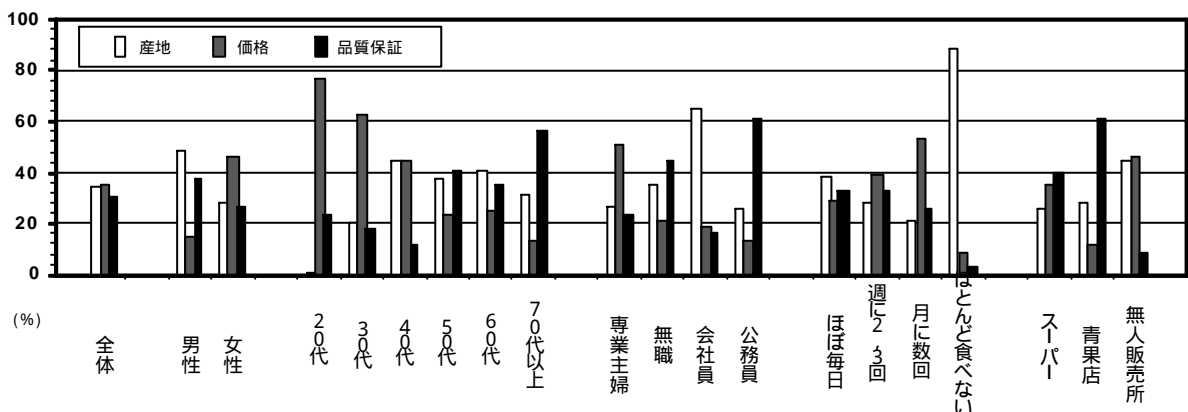


図5 産地、価格、品質保証の購入への影響度

印は、ホールアウト表を用いてモデルの当てはまりを検証した結果、やや当てはまりが悪かったものである。産地、価格、品質保証の影響度の合計は100となる。

[ その他 ]

研究課題名：温州ミカンの品質保証果実の少資材・低コスト生産体系の確立  
 予算区分：国庫（地域基幹）  
 研究期間：1999～2003年度  
 研究担当者：鳥羽由紀子、岩坪友三郎  
 発表論文等：